

伊豆道の駅ネットワーク

- 伊豆半島の玄関口にあたる道の駅函南(仮称)に伊豆全体の情報発信拠点となる「伊豆ゲートウェイセンター函南(仮称)」を整備
- 伊豆半島内にある8駅(計画中含む)の道の駅を「ネットワーク化」し、地域の多様な観光情報を道の駅を起点に一体的に発信するとともに、外国人対応等を各駅が連携(機能補完)して行うことにより、伊豆半島圏域の周遊観光を促進し観光競争力を強化

<地方創生拠点としての機能> ゲートウェイ型

インバウンド観光
訪日外国人誘客による世界ブランド化

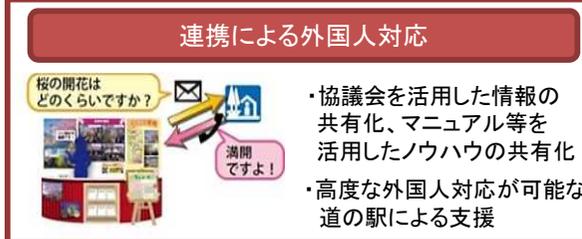
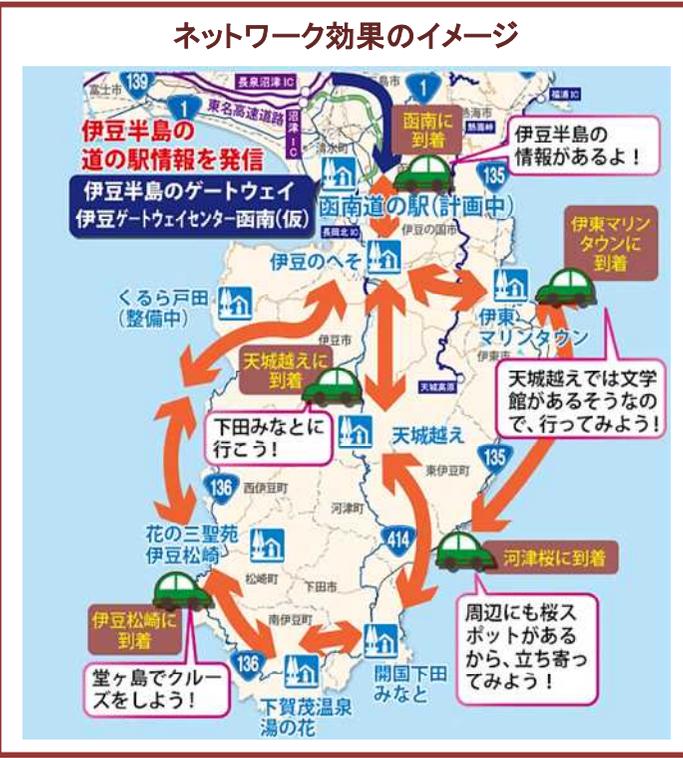
観光総合案内
ネットワークを活用した観光情報の発信

●豊富な観光資源
伊豆地域は、豊かな自然による風光明媚な景観と、文学や歴史、グルメや富士山を望めるロケーションなど多様な観光資源が豊富に点在



●道の駅のネットワーク化『相乗効果』を発揮
【伊豆の魅力向上】 市町ごとにバラバラの観光情報を一体的に情報発信(伊豆半島全域の多様な観光資源をPR)
【外国人対応力強化】 既存・新設のビジット・ジャパン案内所との連携による機能補完や、既存駅とのノウハウ共有

●情報発信拠点の整備
伊豆半島の道の駅の玄関口に立地する「道の駅函南」において、伊豆全体の情報発信拠点となる「伊豆ゲートウェイセンター函南(仮称)」を整備



道の駅 函南(計画中)

情報発信・地場産品販売による地域活性化・防災拠点機能を兼ね備えた道の駅を整備

イメージパース

道の駅函南
伊豆ゲートウェイセンター函南(仮)

- 伊豆半島の情報発信拠点
- 観光情報
- 道の駅・道路情報
- ジオパーク情報

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
①伊東マリンタウン	静岡県	伊東市	国道135号	既設	平成14年	単独
②開国下田みなと	静岡県	下田市	国道135号	既設	平成15年	単独
③天城越え	静岡県	伊豆市	国道414号	既設	平成10年	単独
④伊豆のへそ	静岡県	伊豆の国市	国道414号	既設	平成17年	単独
⑤花の三聖苑伊豆松崎	静岡県	松崎町	県道15号	既設	平成7年	単独
⑥下賀茂温泉湯の花	静岡県	南伊豆町	国道136号	既設	平成21年	単独
⑦くるら戸田	静岡県	沼津市	県道18号	新設	平成26年	単独
⑧(仮称)函南	静岡県	函南町	国道136号	新設	計画中	単独

<提案の先駆性・ポイント>

- ネットワーク化: 道の駅及び県・7市6町の行政及び観光協会、国交省等の連携
- インバウンド観光: 外国人案内所等の設置を進めるとともに、外国人への連携対応、ノウハウ共有で、圏域としてのインバウンド対応力を強化
- 観光総合窓口: 伊豆全体の観光情報を地域協働により収集し、道の駅を核として発信することで、周遊観光の推進による圏域の競争力を強化

<実施内容>

- 伊豆全体の情報発信拠点となる「伊豆ゲートウェイセンター函南(仮称)」を整備
- インバウンド観光の促進(外国人案内所登録、免税店登録、対応マニュアル等)
- 伊豆が一体となった観光情報の発信(Webアプリ、外国語対応)
- 道の駅、駅内情報提供施設への誘導方策改善(ゲートサイン、大型マップ等)
- 道の駅及び周辺の体験型観光の情報発信(リーフレット等)

道の駅「(仮称)たいじ」

- 日本の捕鯨の水産業発展の糸口となった古式捕鯨発祥の地として400年の歴史のある「くじらの町」太地のゲートウェイとして、くじらと共に歩んできた歴史・文化の情報発信施設、観光案内所を整備し、地域観光の出发点として運用
- 森浦湾で進められている「森浦湾鯨の海構想」の拠点とし、湾に放流したくじら等と触れ合う環境学習や生涯学習の場を提供

＜地方創生拠点としての機能＞
ゲートウェイ型

観光総合窓口
くじらと触れ合える場を提供する
来訪者を「おもてなし」する

インバウンド観光
地域の歴史文化の理解及び
新たな体験型環境学習を促す

産業振興
くじらの加工品等の太地オリジナル商品開発
くじらグッズのブランド化

「森浦湾鯨の海構想」将来構想図



駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
たいじ (仮称)	和歌山県	太地町	国道42号	新設	平成28年	一体型



＜実施内容＞ ※イメージ図であり、今後、変更があります。

- 太地の鯨肉の食文化や捕鯨などくじらと共に歩んできた歴史・文化を正しく理解してもらうために、情報発信施設(環境・生涯学習のための機能を含む)の設置
- 周辺観光情報等の提供・受付を行う観光案内所等の配置
- 鯨の加工品等の販売、提供を行う物販施設、レストランの設置
- 誰もが快適に利用でき、日本一トイレの綺麗な道の駅として感じてもらえるように整備・運用

＜提案の先駆性・ポイント＞

- くじらと触れ合える森浦湾の「ゲートウェイ」として、環境学習や生涯学習の受付や、古式捕鯨発祥の地としての歴史や鯨肉の食文化など、くじらと共に歩んできた太地町の歴史・文化・伝統を発信する拠点として運用するとともに、周辺の観光情報等も提供。
- 「おもてなし」を表現する象徴として、地域全体が「日本一トイレの綺麗な観光地」づくりを目指す。

道の駅「神話の里 白うさぎ」

- 神話「因幡の白うさぎ」を中心に、山陰海岸ジオパークの地形地質遺産、古代山陰道の遺跡など歴史や自然の継承を担う
- 歴史・自然などの共通テーマを通じ、周辺観光施設及び他の「道の駅」との連携拠点を担う施設を目指す

<地方創生拠点としての機能>
ゲートウェイ型

観光総合窓口 神話を中心に歴史・自然の観光を展開	産業振興 タイアップ商品や地元産品を活用	交流促進 公共交通の乗継拠点化、生きがづくり
------------------------------------	--------------------------------	----------------------------------

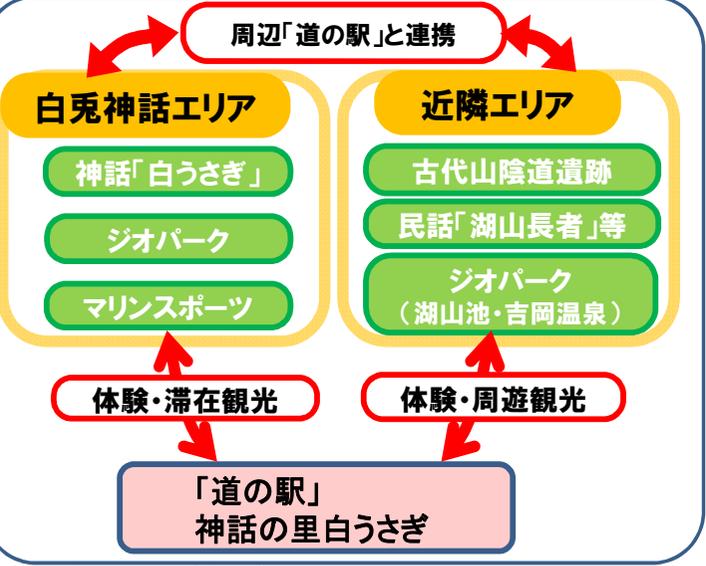
神話『因幡の白うさぎ』

● 淤岐の島に住む1匹の白兎が海を渡るため鮫を騙したが、鮫の逆鱗に触れ毛皮をはがされてしまう。白兎が痛みで泣いていたところ、因幡の国に住む八上姫をめぐると通りかかった大国主命の兄神に、面白半分に海水で体を洗うように言われ、ますます容態が悪化してしまう。
 ◎ 苦しむ白兎に、遅れて通りかかった大国主命が正しい対処方法を受けたところ、白兎の容態はみるみる回復した。たいそう喜んだ白兎が、お礼として大国主命と八上姫との縁を取り持った物語である。

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
神話の里 白うさぎ	鳥取県	鳥取市	国道9号	既設	平成17年	一体型



<連携拠点イメージ>



周辺「道の駅」と連携する仕掛け

- ★ 白兎神話を元にした商品
- 大国主命は、「道の駅 神話の里白うさぎ」のみで販売
- 八上姫は、「道の駅 清流茶屋かわはら」のみで販売
- 2つ集めると台紙がハートマークとなる



淤岐の島



白兎神社



古代山陰道の出土品



白兎観光協会ボランティアガイド

<実施内容>

- 地形地質遺産や古代山陰道出土品の展示施設、神話学習コーナーを整備。さらに体験・周遊観光のためコミュニティバスを運行
- 周辺道の駅と連携したタイアップ商品、特産品の開発・販売
- 道の駅に観光協会職員を配置し、地域ボランティアガイドと連携した“おもてなし”を実践
- マリンスポーツやジオパークウォーキングの拠点化、スタッフ配置
- 長時間の滞在や休憩が可能な、緑陰広場を整備

<提案の先駆性・ポイント>

- 神話「因幡の白うさぎ」、山陰ジオパークなど地域の歴史や自然を題材とした、広域に渡る他の「道の駅」との連携を実施中。神話に関連したマスコットの販売や、新商品の開発により広域的な観光・地域振興が期待できる。
- 鳥取自動車道、山陰道の整備が進む中、くつろぎをテーマに滞在可能な休憩施設を整備。道の駅が拠点となり周遊観光による交流・産業振興を促進する。

- 燃烧系・癒し系の体験型観光＋生物多様性を学ぶ干潟環境教室を「道の駅」を中心に実施し観光交流人口の拡大を図る
- 産業活性化施設「海道しるべ」(6次産業化の拠点)と連携し、「道の駅」オリジナル商品を開発
- 「道の駅」を拠点とした買い物弱者への宅配サービスを強化するため、空き店舗等を宅配サテライト施設として整備

<地方創生拠点としての機能>
ゲートウェイ型

観光総合案内
地域資源を活かした体験・教育と周遊観光の拠点として機能

産業振興
特産品を活用したオリジナル商品の開発により魅力向上

地域福祉
買い物弱者への宅配サービス強化

産業活性化施設連携
みち「海道しるべ」

日本三大稲荷
ゆうとくいなりじんじや「祐徳稲荷神社」

地域福祉への貢献
「宅配サービス」

みち
「海道しるべ」

「道の駅」鹿島

ひぜんはましゆく
肥前浜宿

世界一になった地域の特産品
ひぜんはましゆく肥前浜宿「日本酒」

環境教育施設の充実
ミニ水族館

有明海

日本一の干潟を活かした体験
「ガタリンピック・干潟体験」

地域資源を活かした体験
「ニューツーリズム」

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
鹿島	佐賀県	鹿島市	R207号	既設	平成6年	単独型

現況写真

有明海 干潟

「道の駅」鹿島

干潟体験者数

「道の駅」登録
以降利用者が増加していたが、近年減少傾向

700, 15,941, 12,265

「道の駅」鹿島

- <提案の先駆性・ポイント>
- 日本一の干満差を誇る有明海等を活かし、豊富なメニューの自然体験、環境に関する教育、またニューツーリズム等による“ひと”の交流拠点を形成
 - 地域活力の創造・産業活性化を図る施設「海道しるべ」と連携し地域の特産品を活用した新たなオリジナル商品の開発。
 - 地域密着型の宅配事業と空き店舗活用による宅配サテライト施設の整備

- <実施内容>
- (仮)干潟交流センターとして強いテーマ性を持った体験・交流・研修施設を整備するとともに既存の干潟展望館のミニ水族館を改修
 - 研究加工・販売のプロフェッショナルと連携しオリジナル商品の共同開発
 - 空き店舗を活用し宅配サテライト施設を整備